

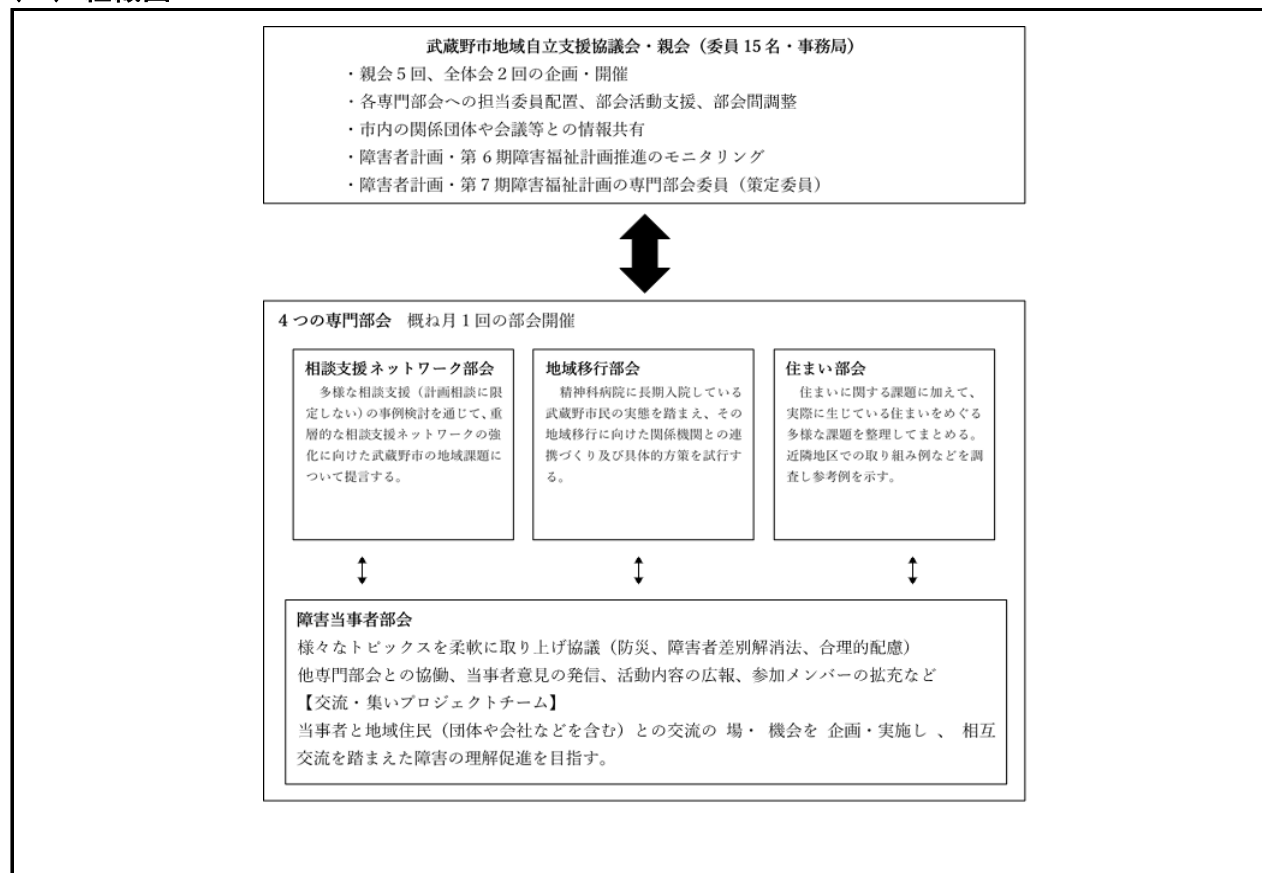
1 地域自立支援協議会の基本事項

(1) 名称 武蔵野市地域自立支援協議会

(2) ホームページURL

<https://www.city.musashino.lg.jp/shisei/oh/shisaku/kenkofukushibu/shisaku/keikaku/chikiiritsushienkvogikai/1043728.html>

(3) 組織図



(4) 会議実施方法等

ア 開催方法

全体会	集合形式	専門部会等	集合形式
-----	------	-------	------

具体的な内容

イ 開催時間

全体会	平日夜間（業務時間外に係る時間帯）	専門部会等	平日夜間（業務時間外に係る時間帯）
-----	-------------------	-------	-------------------

具体的な内容

2 地域自立支援協議会の委員

(1) 委員名簿

No.	役職	氏 名	所 属	種 別	備考	経験年数
1		安東 博	障害当事者部会員	障害当事者（ピアサポーター含む）		長期
2		岩岡 由美子	民生児童委員協議会	民生委員・児童委員		1年
3	会長	岩本 操	武蔵野大学人間科学部人間科学科教授	学識経験者		長期
4		久保田 聡	明日の風法律事務所弁護士	法曹関係者		長期
5		後藤 耕士	社会福祉法人武蔵野ジョブアシストいんくる	障害福祉サービス等事業者		1年
6		佐藤 資子	社会福祉法人武蔵野千川福祉会チャレンジャー	障害福祉サービス等事業者		長期
7		杉本 美乃	株式会社浩仁堂地域活動支援センターコト	相談支援事業者		1年
8		立野 信行	社会福祉法人おおぞら会あすはKids	障害福祉サービス等事業者		2年
9		中村 美奈子	東京都多摩府中保健所保健対策課地域保健第二担当	保健所		1年
10		西村 聡彦	市民公募委員	地域住民		1年
11		長谷川 圭	特定非営利活動法人ゆうあいセンター	障害福祉サービス等事業者		長期
12	副会長	羽田野 敦子	社会福祉法人武蔵野地域生活支援センターぴーと	相談支援事業者		1年
13		福本 千晴	障害当事者部会員	家族・関係団体		長期
14		山本 紀之	特定非営利活動法人ミュー	障害福祉サービス等事業者		1年
15		横山 美江	社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会	社会福祉協議会		長期
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

※委員名簿に情報を記載できない理由

--

(2) 委員構成

種 別	全体会・部会名	全体会	相談支援ネットワーク部会	地域移行部会	住まい部会	障害当事者部会
学識経験者		1		1		
医療関係者		0	1	1		
保健所		1		1		
教育関係機関		0				
雇用関係機関		0				
企業		0				
障害当事者（ピアサポーター含む）		1	1	2	2	7
家族・関係団体		1			1	1
身体・知的障害者相談員		0				
相談支援事業者		2	2			
障害福祉サービス等事業者		5	10	9	11	3
社会福祉協議会		1				1
法曹関係者		1				1
民生委員・児童委員		1				1
地域住民		1				1
行政職員（区市町村）		0	1	1	1	1
行政職員（都）		0				
その他		0				
計		15	15	15	15	16

3 地域自立支援協議会の活動状況

(1) 地域自立支援協議会での協議事項（複数回答）

① 相談支援事業の運営体制に関すること。

相談支援ネットワーク部会において、個別ケースワークの事例検討等を踏まえ、相談支援ネットワークの強化に向けた武蔵野市の地域課題についての検討を行っている旨の報告を受けた。

③ 地域移行・地域定着支援に関すること。

地域移行部会において、地域移行に向けた関係機関との連携づくり及び具体的方策の試行に向けて、研修会の実施や先駆的事例となる事業所への見学を行った旨の報告を受けた。

⑧ 社会資源の開発及び改善に関すること。

住まい部会において、「地域における一人暮らし・賃貸・情報の活用」に焦点をあてて進めていき、障害種別やライフステージに関わらず、誰もが少しでも参考になる取り組みが行えるようにしていく旨の報告を受けた。

⑨ 障害者差別解消法や条例、権利擁護に関すること。

障害当事者団体において、市内在住、在勤の障害のある方がたが主役になって楽しみ交流する機会であるとともに、多様性の社会と相互理解を目指して、ボランティアや市内福祉団体の協力を得ながら実施する「あったかまつり」を開催した。

障害のあるなしにかかわらず、市民がお茶を飲みながら交流する『ふれあいカフェ』を開催した。

⑩ 地域生活支援拠点等の整備に関すること。

事務局より地域生活支援拠点（面的整備）における、登録事業所の状況や今後の取り組み予定について報告し情報共有した。

⑪ 障害福祉計画等に関すること。

武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の策定委員も兼務し、計画策定に伴う今後の取り組みの方向性や重点等について審議した。

⑫ 地域自立支援協議会の運営に関すること。

他専門部会の活動内容を把握し、専門部会間での連携がより行えるように専門部会の議事録を適宜共有した。

(2) 地域自立支援協議会としての役割（複数回答）

② 情報共有・情報発信

各専門部会の活動状況を報告・情報共有しあい、部会間連携を支援する。

⑤ 地域課題の整理

各専門部会からの活動報告を受け、課題整理を行う。

⑥ 課題解決に向けての検討

障害福祉計画における主な地域課題と連動するように専門部会を再編し、計画および課題解決の推進に向けて検討する。

⑦ 障害福祉計画等の進捗管理や調整

障害者計画・第6期障害福祉計画推進のモニタリングを行うとともに、次期計画（武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画）の策定委員も兼ねる。

⑨ 構成員の資質向上・研修の場

各専門部会に関連する研修会等の開催支援を行う。

(3) 地域自立支援協議会として把握している地域課題

ア 個別の困難事例の把握・検討（複数回答）

⑥ その他（令和5年度は個別の困難事例の把握・検討が推進できていない）

地域自立支援協議会委員が次期計画（武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画）の策定委員も兼ねており、計画策定に向けての協議がメインになっていたため。

イ 地域課題が「あがっていない」又は「わからない」とした理由

--

ウ 地域課題に対して取り組んだ（取り組んでいる）内容又は取り組めなかった理由等（複数回答）

① 相談支援の質及び量

相談支援ネットワーク部会において、個別ケースワークの事例検討等を踏まえ、相談支援ネットワークの強化に向けた武蔵野市の地域課題についての検討を行った。

② 社会資源の開発及び改善

事務局より地域生活支援拠点（面的整備）における、登録事業所の状況や今後の取り組み予定について報告し情報共有した。

③ 権利擁護・虐待防止

障害当事者団体において、市内在住、在勤の障害のある方がたが主役になって楽しみ交流する機会であるとともに、多様性の社会と相互理解を目指して、ボランティアや市内福祉団体の協力を得ながら実施する「あったかまつり」を開催した。
障害のあるなしにかかわらず、市民がお茶を飲みながら交流する『ふれあいカフェ』を開催した。

⑧ 社会資源の開発及び改善に関すること。

住まい部会において、「地域における一人暮らし・賃貸・情報の活用」に焦点をあてて進めていき、障害種別やライフステージに関わらず、誰もが少しでも参考になる取り組みが行えるようにしていくという旨の報告を受けた。

⑪ 地域移行・地域定着支援

地域移行部会において、地域移行に向けた関係機関との連携づくり及び具体的方策の試行に向けて、研修会の実施や先駆的事例となる事業所への見学を行った旨の報告を受けた。

エ 地域課題の中で、広域又は東京都全域で対応するほうが良いと考える課題

⑤ 福祉人材（マンパワー）の確保

ヘルパー不足の解消。相談支援専門員の専門性の向上。

⑥ 緊急・災害等対応

緊急・災害はいつ何時でも起こりえるため、東京都全体で自治体を超えた広域連携が必要ではないか。

⑨ 教育支援

教育部門との連携。園や学校、生涯学習など広域かつ包括的な施策が必要ではないか。

⑩ 就労支援

働く選択肢の拡大と、その環境整備と支援が広域で必要ではないか。

⑬ その他（医療機関との連携）

緊急時を含め、治療や入院などで医療にかかる際に当事者が必要としていることの理解、連携が必要ではないか。

4 地域自立支援協議会の活性化

(1) 地域自立支援協議会活動の評価

ア 全体会・専門部会等の評価

全体会	活性化した。	専門 部会等	活性化した。
-----	--------	-----------	--------

具体的な内容

--

イ 活性化したと評価する理由

<ul style="list-style-type: none">・計画の推進に向け、部会の再編などを行ったため。・専門部会員を含めたグループ討議を引き続き取り入れた。
--

ウ 活性化するための今後の取組

--

(2) ICTの活用

<ul style="list-style-type: none">・積雪に伴う荒天影響により集合形式での開催が困難になった際、WEB会議システムを活用した。
